

研究主題「文章の内容を的確に捉え、論理的に思考する力を育む指導の工夫

—説明的な文章を通して—

東京都教職員研修センター研修部授業力向上課
杉並区立荻窪小学校 主任教諭 松本 尚子

第1 研究のねらい

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」（中央審議会答申 平成20年1月）において、学習指導要領の改訂の基本的な考え方の一つとして、思考力・判断力・表現力等の育成が示された。この方針を踏まえ、小学校学習指導要領解説国語科においても、的確に理解し、論理的に思考し表現する能力を育成することが重要であることが示された。

「平成25年度全国学力・学習状況調査」（文部科学省）では、「複数の内容を含む文の中の語句の役割や語句相互の関係を理解すること」「調べて分かった事実に対する自分の考えを、理由や根拠を明確にして書くこと」に依然として課題が見られた。

実際に学校においても、文章や資料から情報を抜き出すことはできても、読んだことを根拠に自分の意見や考えをまとめ、表現することを苦手とする児童がいた。このことから、児童が、文章の内容を正確に理解し、それを知識や経験と結び付けて解釈することによって自分の考えをもつこと、さらにその考えについて、理由や立場を明確にして説明することを通して、考えを深めていく「論理的思考力」を伸ばしたいと考えた。

そこで、本研究では説明的な文章の読みを通して、文章の構造や表現の工夫などを知るとともに、自分の考えを明確にし、その学びを基に論理的思考力を使って説明文を書くことができる児童の育成を目指すこととした。本研究における「表現」とは「読み取ったことを理解し書き表すこと」とする。また、国語の時間で身に付けた力を他教科で生かすことを探っていく。

第2 研究仮説

筆者の論理の展開や文章表現の工夫を考える学習活動を取り入れることにより、児童は筆者の意図を捉え、読んだ内容を基に自分の考えをもち表現することができるだろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

「平成25年度児童・生徒の学力向上を図るための調査」（東京都教育委員会）の分析より、児童には筆者の思いを理解・解釈してまとめる問題で、問題の傍線部の直前の記述にのみ着目した読みを行う誤答が多く見られた。また文章の内容を捉えるためには、文と文、段落と段落の関係性を捉えなければならないが、適切な接続語を選択する問題においても課題が見られた。

そこで、段落相互の関係を捉えるために接続語の役割を理解する指導と筆者の意図を理解するために内容と資料の関連性や目的に応じてまとめる指導の工夫が必要であると考えた。

2 調査研究

説明的な文章に対する意識と実態を明らかにするために、平成25年7月に、都内公立小学校7校の児童(第3～6学年1,082名)及び担任教師(86名)を対象に質問紙調査を実施した。

(1) 説明的な文章の学習における意識調査

図1のように「既習事項を活用している」項目では、児童の多くは、説明的な文章を接続語に注意しながら読み進めようと意識していることが分かった。

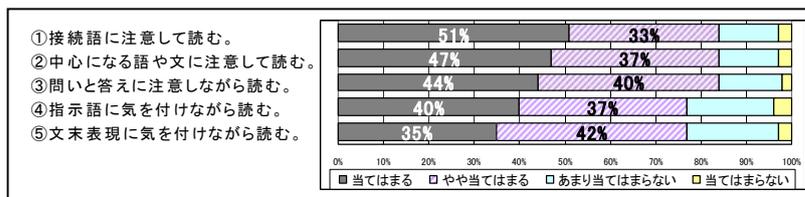


図1「説明的な文章を読む時、既習事項を活用している」児童の意識調査

しかし、図2のように「文章を読んで書き手の考えと自分の考えを比べる」項目では、児童は学年が上がるにつれ、できると回答した割合が減少している。これは、学年が上がるにしたがい、児童が文章を捉える難しさを意識したためとも捉えられるが、文章を意図的に考えながら読み進めることに課題があり、指導において繰り返し行い、学習を積み重ねていく必要があると考えた。

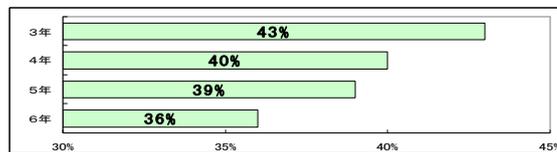


図2「文章を読んで書き手の考えと自分の考えを比べる」児童の意識調査

(2) 説明的な文章の学習の他教科への活用

説明的な文章の学習が他の教科でも活用できるよう学習したことを基に、レポートの作成や説明、論述などの学習活動の指導を行っているかを問う意識調査では、図3のように否定的な回答をした教師が52%であった。

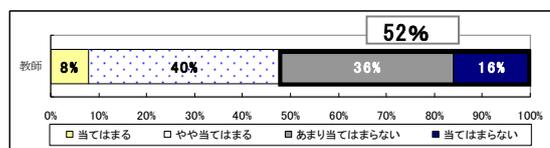


図3 他教科への広がりに対する指導の意識（教師）

その理由として、「その活動の手だてや指導が上手くいかない。」「教師主導になってしまう。」という回答が多く見られた。

上記の調査結果より、文章の内容を的確に捉えるために、接続語の役割に注意して段落相互の関係性を捉えさせることが第一の課題と考えた。そして、読み取った文章を基に、考えの根拠となる言葉や文章を抜き出す力を育むようにしていく。さらに、国語で学習してきたことを活用し、身に付けた力を他教科で活用できる工夫も必要であると考えた。

3 開発研究

(1) 指導事項を位置付けた「読むこと」の年間指導計画例の作成

説明的な文章の学習を通して、児童をどのような読み手に育てるのかを明確にするために、各単元で児童に身に付けさせたい力を育むための指導目標や指導事項を明確にした年間指導計画例を作成した。さらに、説明的な文章を通して身に付けた力を他の学習へ活用できる具体的活動例も示した。



図4「読むこと」の年間指導計画例

(2) 児童の思考を促すワークシートの工夫

ア 文章の構造を考えさせるための段落別ワークシート

児童に文章の関係性を理解して解釈する力を育むためには、段落相互の関係を捉える読みの力を育むことが必要であると考えた。そこで、段落のまとまりを色で分けた段落別ワークシートを開発した。これを活用して以下の学習活動を設定した。

- ① 文章中の接続語の役割を考える。
- ② 説明的な文章の構成を捉える。
- ③ 学習した内容を他の題材に置き換えて、活用する経験をさせる。

児童に、説明的な文章で学んだ接続語の役割と、接続語を用いた論理の展開の仕方を生かして、自分で表現したいことを文章に書き表す力を育むようにする。

的な文章を書くことができた。

(2) 筆者の表現の工夫を考えさせるためのワークシート(第5学年)

まず、読み手としての資料の有効性を確かめるために、資料のある文章とない文章を読み比べた。31名中29名の児童が、資料が文章の理解を促すことを実感した。また資料を当てはめる活動では、31名全員が図表について説明している部分を探し出し、資料と文章の関係を考えることができた。以上のことから、児童は読み手として資料の効果を感じることができたと捉えた。さらに、書き手として資料の効果を確認する活動では、図表を用いて論理を展開することに対して、31名中27名の児童が資料を活用して説明するよさを実感していた。学習後の感想より、接続語を用いて文章を組み立てることにより伝えたいことを明確にし、論理の展開を考えながら書くことができた」と述べている児童が31名中27名いた。

今回学習した論理的に思考し表現する学習活動を理科「電磁石の性質」及び社会科「わたしたちの生活と工業生産」での観察カードの予想・考察や調べ学習でのまとめで活用した。

第4 研究の成果

- 第3学年では、説明的な文章の読解で学んだ接続語を用いた論理の展開を生かし、伝えたいことの順序と説明の工夫を考えながら、段落相互の関係を捉えた説明的な文章を書くことができた。

- 第5学年では、グラフや図、写真などの非連続型テキストを筆者の表現の工夫として理解したことにより、資料の効果を活用した文章を読んだり書いたりすることができた。また、その学習を生かして他の教科で活用する姿も見られた。

第5 今後の課題

- 国語の時間で身に付けた力を他教科でも活用していくために「論理的に文章を読む力を育てる年間指導計画例」を所属校において取り組み、課題点を修正し実践していく。

学習の様子



習得

活用

表現

根拠となる部分を見つけ、資料を選択する。資料が文章の理解を促す役割があることを知る。

資料を用いた論理の展開を考えながら説明文を書く。

「天気を予想する」(児童が資料を用いて書いた説明文) ※太字部分は教科書本文を使用
これから、移動教室へ出発する前後の天気について、資料を使って説明します。

まず出発する前日の天気です。上の写真を見てください。日本列島全体に雲がかかっています。A町では、午後から風が強くなりはじめ、雨も強まってきました。B町でも、左のグラフのように、A町と同じような天気になっていました。また、この日は左のグラフのように、夜になってくるとさらに雨が強くなりはじめました。

では、台風はどのように変化していったのでしょうか。左の実況天気図を見てください。十五日には、台風は、日本列島よりも南の方にありました。十六日にはどのようになっているのでしょうか。

この日は、上の実況天気図のように太平洋側に台風は動いていました。つまり、台風は南の海の上で発生し、西の方から北東に動いていくことが分かりました。

では、十六日の雨はどのような様子だったのでしょうか。下のグラフを見てください。これは、一時間ごとの降水量を表したものです。午前一時には雨は弱くなりましたが、次第に雨は強くなりはじめました。午前五時には、一時間に三十ミリメートル近く降ったのが分かります。また、風も強く、雨が窓をうちつけるようになってしまいました。上のグラフのように、私たちが出発した午後一時ごろの天気はどうだったのでしょうか。上のグラフのように雨はやみ、太陽の光が雲のすきまから見えていました。

科学技術の進歩や日常的な生活の便利によって、天気予報の精度は年々向上しています。それによって、わたしたちの生活はますます便利になっているのです。

しかし、天気予報の精度が向上しても急な天気の変化を予想するのは簡単なことではないと思います。また、天気予報の天気が必ずしもそうであるとはかぎりません。つまり、自分自身で、天気を予想することが大切だと思います。そのために、インターネットやテレビなどの天気予報にたよらずに、自分自分で空の様子を見ることが必要だと思います。

最後に、私たちがくらしやすくするために、まず、天気のことに興味をもったり、日ごろから天気予報を見たりすることが大事だと感じました。

発展

国語の学習で学んだことを他の教科で活用する。

図6 「天気を予想する」(第5学年)